

私たちの事を私たち抜きで決めないで Nothing About Us Without Us.



IFCA Youth Project Presents...

JAPAN FOUNDATION  国際交流基金

日米ユースサミット&ワークショップ 当事者参画とレジリエンシー



日時：2月18日（日）

会場：新宿エステック情報ビル◎ アクセスは裏面
21階 会議室A [東京都新宿区西新宿1-24-1]

[午前]

日米ユースサミット

午前 9時30分開場 10時から午後12時まで

参加費：2,500円 [フォスターユースは参加費無料です]

[午後]

米国スピーカーによるふたつのレジリエンス・
ワークショップ

午後 12時45分開場 1時から3時45分まで

参加費：5,000円 [フォスターユースは参加費無料です]

定員100名

▶参加申し込みフォーム URL:

<http://ifcajanevent2024.peatix.com>



社会的養護の当事者にとってレジリエンスとは？

レジリエンシー（レジリエンス）という言葉が議論され始めて20年がたったときに、新型コロナウイルス感染拡大危機が起きました。世界各国の施設や里親家庭で育った若者たちが、危機の中を自身の力やリソースを最大限に利用しながら生き延びていたことが、様々な調査からわかりました。

今年の「日米ユース・サミット」のテーマは「社会的養護における当事者参画とレジリエンシー」です。レジリエンスという抽象的な言葉の持つ意味を、当事者参画の立場から見直してみよう、という試みです。ふたりの米国スピーカーが、講演とワークショップを通して「当事者のレジリエンス」に対する新鮮な視点を提示する中で、参加者すべてが新型コロナ後の若者たちの繋がり回復と、新しい支援のかたちを探る1日です。

当事者の声を伝え続けてきたIFCAの日本ユースたちは現在、団体設立11年目にあり、全国の5つの地域で活動しています。3名のユースから始まった小さな集まりが、今では60名の若者たちが渡米し、全米規模のユース組織と協働し、国内で児童福祉のポリシーや実践に影響を与える役割を担うまでに成長しました。今年のサミットでは団体の新しいメンバーたちの声を聴くことができます。

社会的養護の当事者は社会的養護の専門家。制度に最も影響を受けた当事者ユースたちの制度改革への参加は不可欠である
Youth are the experts. Those who are directly impacted by the system must be part of changing it.

プログラム

午前：日米ユースサミット

BY IFCA日本チームと米国スピーカー

■ 2023年8月に渡米したIFCAユースチームが初めての正式な報告を行います。ワシントン州シアトル市での10日間の視察旅行から学んだこと、体験したことを5人のユースが発表します
(スライドプレゼンテーション 30分)

田邊紀華 (東京) ・ 山本愛夢 (東京) ・
宮崎菜々 (東京) ・ かほ (関西) ・
佐々木龍成 (札幌)

■ 米国の当事者スピーカー2名による
基調講演 (逐次通訳あり・1時間)

*テツテ・ロジャース (ルイジアナ州)

*ピアンカ・ベネット-スコット (ニューヨーク州)

ふたつの異なる見地から、社会的養護の当事者のレジリエンスについての考察と可能性について語ります

■ IFCAの地域チームを代表して、日本ユースチームの新メンバー数名がパネルディスカッションを行います。自身に起きた困難な出来事とそれを乗り越えた経験について。またレジリエンスとは何かについてのリレートークと質疑応答の30分です

★ 会場にて、自立支援やユースの権利擁護にかんする資料を用意しています

午後：米国スピーカーによる
ふたつのレジリエンス・ワークショップ
(逐次通訳あり)

1) 未来を構築するためのアート・ アクティビティ

◎ ファシリテーター：テツテ・ロジャース

私たちは過去と現在を理解することで、夢を描き、計画を立て、追いつめたい未来の願望や希望を実現することができます。このワークショップでは、アートを通じて、過去の経験が現在の私たちの位置とどのように関連しているかを明確にし、結びつける方法を探ります。私が過去にこのアクティビティに参加した時、自分が「国際児童福祉の分野で動き変化をもたらすことを思い描いていました。そして今、皆さんのおかげで、私はここにいます。75分 (アクティビティの材料は無料提供します)

◇ 10分休憩

2) 「レジリエンス」という言葉の 複雑さについて新たな視点を提供する

◎ ファシリテーター：ピアンカ・ベネット-スコット

レジリエンスの多面的な性質に踏み込んで行くことでこの言葉を「単に個人の特性として捉える誤った解釈」に異議を唱えるワークショップです。児童福祉の専門職を含むすべての参加者が、ユースのレジリエンスを育むために共感性と地域志向のあるアプローチを選択することにより、従来、ユース個人の重荷だったものを、集団の責任へと変えることができるようになります。75分 (プレゼンテーションと会場の参加者とのアクティビティ)

Supported by 

ご来場の皆様へ

毎年、米国ユーススピーカーの来日に合わせて開催するIFCAユースサミットは、自立を迎える若者が様々な経験をした先輩に会える場です。当事者ユース、ケアラー、養育者、児童福祉関係者のみなさまは、是非ご参加ください。

◎ 新宿エステック情報ビルへのアクセス

JR 新宿駅西口より都庁方面に向かい、工学院大学ビルの隣、新宿センタービルの道路挟んで向かい側。徒歩5分西口地下ロータリーを経由し、地下道を利用することができます



Youth Engagement and Resiliency

テツテ・ロジャース (写真右) ノースウェスタン州立大学で政策、哲学、経済学を専攻、歴史学の学士号を取得。現在、ICFインターナショナル『キャパシティ・ビルディング・センター』でユース参画の技術リードマネージャとして勤務。サービス提供、コーチング、研修におけるユース開発を指揮し、州、管轄区域、部族に技術支援と、社会的養護を離れたユースの管理・支援をしている。児童福祉の政策と実践において8年間の豊富な経験を持つファシリテーターでもあり、継続的な質の向上(CQI)の実施、能力開発、ピア(仲間)同士の環境構築、研修、専門家によるコンサルテーション提供などを行っている。National Youth in Transition Database (NYTD) 審査員、National Child Welfare and Workforce Institute (NCWWI) 理事も務めている。



ピアンカ・ベネット-スコット (写真左) 2歳と13歳のときにニューヨーク州で社会的養護を受け、17歳で祖母のもとに預けられるまで連続性のない8年間を過ごした。トラウマを抱えながらも変革の力強い支持者となり、子ども、家族、脆弱なコミュニティのために包括的で持続可能な機会を開拓する専門家としてキャリアを築いてきた。トラウマ・インフォームド・ケアとエビデンスに基づく方略により地域社会の合意形成に尽力している。アドボカシー、研修、コミュニティ開発と参画、計画、DEI (Diversity, Equity & Inclusion) の実施などを行なっている。経営学準学士号、法学・行政学学士号を取得後、現在コーネル大学行政学部2年生として人権と社会正義を専攻している。州におけるキャパシティ・ビルディング・センターの児童福祉コンサルタント、ニューヨーク市の年長児童の養子縁組機関 You Gotta Believeの諮問委員でもある。

◎ 共催

■ International Foster Care Alliance [IFCA] 501(C)3
www.ifcasettle.org
米国法人オフィス
6542 4th Ave. NW, Seattle, WA 98117

■ 特定非営利活動法人インターナショナル・フォスターケア・アライアンス
www.ifcajapan.org
日本法人オフィス
東京都渋谷区富ヶ谷1-3-3-6-202

お問い合わせ：info@ifcajapan.org

◎ 助成

国際交流基金
日本財団

▶ このイベントへの参加
申し込みQRコード →



◎ IFCAのニュースレターを受け取るには・・・
このページからご登録ください
<https://ifcajapan.org/publications/newsletter.php>

◎ IFCAの出版物をオンラインで購読するには、こちらのページから
<https://ifcajapan.org/publications/>